

P10 雷別国有林における自然再生の取り組みについて

釧路湿原森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 立野 政信
 上席自然再生指導官 川淵 義昭

背景

雷別国有林（川上郡標茶町雷別）は、釧路湿原源流部のシラルトロ沼の上流域に位置しており、釧路湿原の自然環境の維持・保全のうえで重要な場所です。ここには、林齢が70年を超えるトドマツの人工林が広がっていましたが、平成12年の気象害で立枯れし疎林・未立木地（笹地）となりました。

このため、当センターでは、被害跡地の水土保持機能を高めるため、自然再生（森林再生）を行っていますので、これまでの取り組みと課題を紹介します。

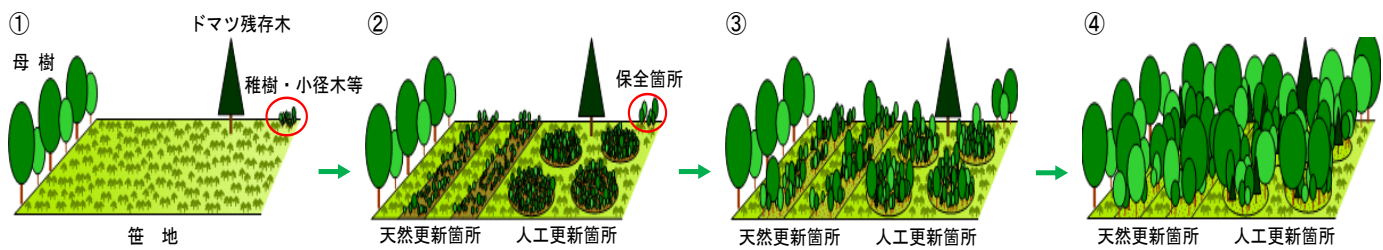


植樹指導の様子

目的・取組内容等

郷土樹種であるミズナラ・カシワ・ハルニレ・ヤチダモ等の広葉樹主体の森林の再生を実施しています。

森林再生のイメージ



これまでの取り組み

平成29年度までに、地表処理と植樹を実施するとともに、必要に応じて防鹿柵等を設置しています。

平成30年度の取り組み

地表処理

人力と大型機械により実施しました。



地表処理の様子

植栽等

ボランティア団体や地域住民との協働、企業のCSR活動と連携し、ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモを500本植樹しました。植栽木はエゾユキウサギによる食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。



ボランティア団体による植樹の様子

保護管で被覆した植栽木の生存率及び成長等

植栽本数は1600本/ha、植栽間隔は2.5mで植栽し保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。保護管で被覆していない植栽木は、数年で全滅しました。



植栽・保護管被覆後の現地の様子



地域住民による保護管の組み立ての様子

- ① 被覆した植栽木の生存率（平成30年現在）
平成21年度：96% 平成28・29年度：98%
- ② 成長は年平均30cm（最大43cm）

平成31年度の取り組み

地表処理

人力と大型機械により予定

植栽等

ボランティア団体や地域住民との協働、企業のCSR活動と連携した取り組み等により、ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ等の植樹を予定しています。また、植栽木はエゾユキウサギによる食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）での被覆する予定です。



植栽時70cm
2年5ヶ月後200cm



企業のCSR活動による植樹の様子